

まち

No.20 2023年 春号

発行日：令和5年3月23日
発行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎ 03-3259-0531 (学科事務室)
発行責任者：後藤 浩 (教室主任)
編集担当：小木曾 裕、西山孝樹
制作：株式会社 ムーンドッグ

contents

巻頭言	1
特集 まちの見方・楽しみ方【中国・四国・九州・沖縄編】	2
令和4年度 修了・卒業生の就職活動状況	9
令和4年度 まちづくり工学科研究業績	10
令和4年度後期 “まち” 行事・イベントカレンダー	13
令和4年度 まちづくり工学科各賞受賞者	15
教職員・学生の活躍	16

巻頭言

ワクワクドキドキのあなたの人生物語はどんな話？

教授 後藤 浩



まずは、新入生の皆さんにおかれましては、ご入学おめでとうございます。また、2年生以上の皆さんに対しては、ご進級おめでとうございます。皆さんにはほとんど影響しないですが、私は岡田教授の後任として、2022（令和4）年10月より教室主任を務めております。どうぞお見知りおきを宜しくお願いいたします。まちづくり工学科は令和4年度に10周年を迎えました。したがって、新入生の皆さんは第11期生となります。当学科も、もはや「新学科」ではなくなりました。さて、新入生の皆さんは当学科を選択しましたが、「まちづくり」という言葉を説明できますか？ え？ できない？ では、今一度自分自身でじっくり考えてみて、しみじみ理解しておいてください。そうすると、今後の学習が楽しくなるはずです。ここでは、将来の「まちづくり」について紙面を割きたいと思います。

「Society 5.0」という言葉（政策）を知っていますか？ Society 1.0＝狩猟社会、Society 2.0＝農耕社会、Society 3.0＝工業社会、Society 4.0＝情報社会とされており、Society 5.0は「サイバー空間とフィジカル空間を高度の融合させたシステムにより、経済問題と社会問題の解決を両立する人間中心の社会」（内閣府）と定義されております。簡単に言えば、皆さんが笑顔になる便利な社会を創る目標です。「そんなこと、まちづくりに関係ないや！」と思っているかもしれません。いやいや、それは認識違い、もったいないです。皆さんが学ぼうとする「まちづくり」の世界はもっと広いです。人に役に立つ仕事をしたくありませんか？ Society 5.0での「まちづくり」分野では、例えば、スマートシティなどと言った言葉で表現できます。聞いたことはありませんか？ 具体的な取り組み、たくさん場所で始まっていますよ。例えば、「大丸有スマートシティ」（大丸有＝大手町・丸の内・有楽町）があります。低速無人バスによる人の移

動を支援する新モビリティの導入、人の回遊性を向上させる MaaS（Mobility as a Service）の導入、各種情報を即座に提供するデータライブラリー、道路空間の3次元情報の提供（防災も含む）、ロボットの導入（飲食物の配送など）が、実証実験の段階ですが行われております。羽田空港近くには「HANEDA INNOVATION CITY」があります。写真は、その「まち」での無人走行バスで、すでに供用されています。皆さんも自主的に調べましょう！

基本的な空間づくりをする土木工学、建築学、造園学分野を包含し、それを礎として、当学科では観光・景観・環境・防災・福祉・健康を総合的に学びます。これらの学びは、まちの安全・安心・便利にする社会の変貌を助ける知識となります。将来の「まち」を創ることを考える「まちづくり技術者」となる皆さんにとって各種取り組みは、学びの推進力になるはずです。皆さんの学ぶ学問のフィールド、勉強材料は「まち」です。学生時代、たくさん「まち」を見て刺激を受け学び、あなたの「ワクワクドキドキの人生物語」を創りませんか？



羽田イノベーションシティにおける無人走行バス

まちの見方・楽しみ方

「まち」の構成要素はさまざまで、多岐にわたります。専門家は「まち」をどのように見ているのでしょうか。

まちづくり工学科は各教員の専門分野の幅広さも特徴のひとつです。専門分野が異なると「まち」の見方や楽しみ方はどのように異なるのでしょうか。

市販のガイドブックとは一味違う、まちづくり工学科教員ならではの「まちの見方・楽しみ方」を満喫して学んでください。

※本誌12号から本号までの偶数号では日本各地の「まちの見方・楽しみ方」を紹介しています。

1 沖縄

那覇市

那覇国際通り ―国際性と土着性―

那覇の国際通りは沖縄らしい食をはじめとした文化を楽しむ表としての目抜き通りです。また国際通り周辺の公設市場のあるような地域には区画整理などされていない生活感のある裏としての街が広がっています。この地域では沖縄独特の雰囲気を楽しめますが、沖縄県は海外に多くの移民を出しているわが国有数の移民県でもあります。世界の「ウチナーンチュ」を集める大会では、写真のような前夜祭パレードも行われます。那覇の中でもとくに国際通りとその周辺は、沖縄の国際性と土着性を感じられる極めて興味深い地域なので、ぜひゆっくりと訪問することをおすすめします。



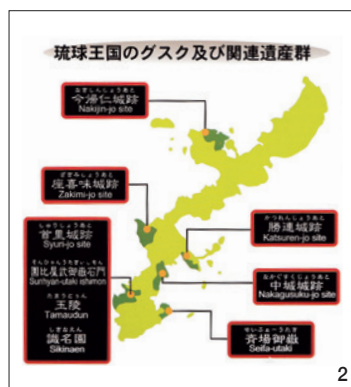
天野光一 特任教授(西山・天野研究室)
専門 | 景観／観光



那覇国際通り(第7回世界のウチナーンチュ大会前夜祭。ガム沖縄県人会の行進)

国頭郡 今帰仁村

琉球王国のグスク「今帰仁城址」



1. グスクの石垣が大きく屏風型の曲線が美しく、また外からも中からもその景観が素晴らしく、当時の方の美意識の高さに感動する。2. 2000年世界遺産に登録され今帰仁城址を含む『琉球王国のグスク及び関連遺産群』は首里城跡をはじめ9つの遺産で構成されている。

今帰仁城跡は琉球王国統一以前の築城といわれています。難攻不落の城と呼ばれ、万里の長城を思わせる長い城壁が特徴。とくに大隈と外郭の石垣が大きく屏風型の曲線を描き、古謡では「城壁を百曲がりに積み上げて」と謡われて蛇行する石積みのことを伝えており、沖縄での屈指の名城で私は大好きです。首里城から85km離れた所にあり、海にも近いながらも標高100mの場所に位置する山城です。沖縄本島に行かれたら、ぜひ歴史を感じながら、まちづくりの意識を持ちつつ、この世界遺産のグスクと周辺の遺産を訪問することをおすすめします。



小木曾 裕 特任教授(小木曾研究室)
専門 | 都市計画／緑地計画

「子ども」とつながり、「子ども」に帰る場所 ー風の帰る森ー



コロナ禍が明けただけひ訪れたい場所のひとつに、沖縄県久米島町が推進する「風の森のプロジェクト」の拠点施設「風の帰る森交流施設」があります。海に面した小高い丘の上に立つ、子どものための交流施設です。

施設内には、児童書を中心とした5,000冊超の本を収蔵する図書室、島内の子ども（小学生）たち向けの「放課後児童クラブ（風森学童）」、そして屋外には、起伏のある地形と既存の森を活かした遊び場があります。一見すると、島内の子どもを主とした地元住民のための施設に思えます。しかし、その他にも来訪者向けの宿泊室、カフェが設置され、島外の観光客も利用可能になっています。つまり、この施設は島内の子ども（地元住民）たちにとっては日常生活の「遊び場」であり、来訪者にとっては観光や保養といった非日常生活のひとつとしての「遊び場」なのです。そして、この日常空間と非日常空間が「遊び」という共通した行為で緩やかにつながり、同じ空間として存在しています。

さらに、屋外に出ると、海の前には「はての浜」を、背後には緑豊かな山が臨め、波、風、木々の存在を五感で感じながらのびのびと自由に子どもたちが遊ぶ風景は、原風景を想起させ、どこか懐かしく居心地の良さを感じることができます。そんな風景は、訪れる大人たちを童心に帰らせ、遊びたくなってしまふ、まさに「大人が子どもに帰る場所」でもあります。

さて、施設内にある風森学童ですが、残念なことに2023年4月から島内の別拠点に移転（予定）となります。とはいえ、今後はこの施設でできた「つながり」をもとに、施設を飛び出し地域で展開していきます。施設内での島内の子どもたちとのつながりがなくなってしまうのは大変残念ではありますが、施設でできた「つながり」が、そこにとどまることなく「まち」に広がり、「まち」が変わっていく未来を想像するだけで、とてもワクワクした気持ちになります。

1. 海と山の間に立つ「風の帰る森交流施設」。空と海の青、森の緑の中に赤い屋根とコンクリート壁を持つ施設がとても映えています。2. 図書室は1階と2階にあります。通常は天井に梁を通しますが、通さないことにより、より開放的な空間になっています。3. 海の前には「はての浜」が臨める丘の上にあります。（写真提供：PLANKTON 渡辺信介）



牟田聡子 助教(牟田・八藤後研究室)
専門 | 建築計画 / ユニバーサルデザイン /
福祉まちづくり

移住者との交流の場づくりとしての久米島直売市

沖縄県は日本で唯一、人口が自然増加・社会増加している県であるが、本島以外では人口の社会減少（流出）に悩んでいる。沖縄県久米島町では移住促進に向けて島ぐらしコンシェルジュが活躍するが、移住してきた新住民と旧住民の交流の難しさが指摘されている。双方とも交流を強く望んでいるが、その場がないことが課題である。その中、久米島直売市は常設ではないため、参加の垣根も低く、出店も容易である。皆の想いを紡ぐ具体的な「場づくり」は重要である。



田中 賢 教授(健康・福祉系研究室)
専門 | ユニバーサルデザイン



久米島直売市（月1回の開催に向けて活発な打ち合わせが行われる。島の若者が多く出店しており移住者との交流が期待できる）

福岡のウォーターフロントスポット 一海に立つ「マリゾン」

わが国のウォーターフロント開発は、1980年代後半から主に港湾再開発として全国に広がり、都市臨海部の賑わい空間として注目されるようになりました。ここに紹介する「マリゾン」は、1989年に竣工した九州の代表的なウォーターフロント開発のひとつです。このほかにも、九州には「ベイサイドプレイス博多埠頭」(福岡市)、「門司港レトロ」(北九州市)、「西大分港かんたん港園」(大分市)など、見どころはたくさんありますが、この「マリゾン」は写真でもわかるように、海上栈橋の上に建築物を立地させるという国内ではたいへん珍しい形態をもつ施設です。それだけに、立地水面にかかる港湾法や施設にかかる建築基準法といった法規制の調整とともに、高潮・高波対策を施設デザインに取り入れる工夫、陸上と海上施設をつなぐライフライン(上下水道、電気等)の工夫など、ウォーターフロントにかかるさまざまな制約条件を創意工夫によって克服した施設になります。竣工年からもわかるように、ウォーターフロント開発が全国に広がる初期の時代ですから、前例がない中でさまざまな苦労があったと聞いています。竣工当初はレストランと物販が中心でしたが、やがて結婚式場やチャペルも併設するようになり、時代のニーズに合わせてながら成長し続けるウォーターフロント施設として、竣工当初から現在に至るまで福岡を代表する観光スポットのひとつになっています。海に抱かれながら結婚の儀を、また飲食などが堪能できる九州・福岡必見のウォーターフロント施設といえるでしょう。

また「マリゾン」は、対岸の「海の中道海浜公園」へ向かう高速船のターミナルにもなっているほか、接続する人工海浜ではさまざまなマリンレクリエーションが楽しめ、直背後の「福岡タワー」は福岡一の高さを誇る展望施設で、近隣には「PayPay ドーム」を有するなど、観光スポットに恵まれた立地環境が当施設の賑わい継続の一要因と考えられます。

ぜひ、九州・福岡訪問の折に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



岡田智秀 教授(岡田・田島研究室)

専門 | 景観まちづくり/ウォーターフロント計画/地域活性化



1. 福岡のウォーターフロントを代表するスポット(マリゾンと福岡タワー) 2. 「マリゾン」全景(筆者撮影) 3. 福岡タワーから見る「マリゾン」夜景

2016年熊本地震の震災遺構 一旧東海大学阿蘇キャンパス



旧東海大学阿蘇キャンパスの地表地震断層

2016年に発生した熊本地震により、とくに熊本県では甚大な被害が生じました。熊本地震の教訓を伝承するための施設群として、点在する震災遺構などを巡る回廊型のフィールドミュージアム「熊本地震 記憶の回廊」の整備が進められています。この回廊の中核拠点として位置付けられている旧東海大学阿蘇キャンパスでは、地震の破壊力による爪痕を目の当たりにできます。自然災害に対して安全で安心して生活できるまちの空間づくりを深く考えさせられます。



仲村成貴 教授(仲村研究室)

専門 | 地震工学/防災/構造工学

黒川温泉の楽しみ方と見方

九州熊本の阿蘇に「黒川温泉」という人気の温泉がある。どこの旅館に宿泊しても、他の旅館の温泉にも入ることができる。ひとつの旅館に泊まりながら、温泉全体として、イベントや浴衣でのまちなか巡り、季節の催しながされる。まち全体が、まるごと温泉旅館なのだ。かつて、交通網の整備から取り残されるなかで「一軒でもうかるうとしても、一軒ももうからない」と、温泉街としての生き方を変え、それを追求することで、他とは違った趣を雄弁に語る。



高村義晴 特任教授(高村研究室)
専門 | 地域創生／都市開発



黒川温泉の光景(筆者撮影。2016年)

行けど切ない石だたみ

長崎市では、長崎さるく博(2006年)を契機に、「長崎さるく」と題するまち歩き観光を展開している。コンパクトで坂道の多いまちならではの取り組みである。古今東西の魅力が積層する長崎のまちは、たとえ雨天であっても、歩いていて飽きることがない。激動の歴史をたどるもよし、美味を食べ歩くもよし、道中の眺望を楽しむもよし、坂道の上り下りで健康づくりに取り組むもよし、多様なニーズに応えることのできる長崎は、実に素敵なまちだと思う。



阿部貴弘 教授(歴史まちづくり研究室)
専門 | 歴史まちづくり／景観／都市史



亀山社中に向かう坂道。雨の中、聖地巡礼をしました。

琉球と 日本文化の交差点 「奄美大島」の魅力

テラ(奄美の言葉で神社を指す)から見下ろす名音(なおん)集落の景観。中世以前に神域を中心とする集落がつくられ、現在まで継承されている。



2021年に世界自然遺産の構成遺産として登録された奄美大島。マングローブやヤシ林など亜熱帯の自然環境に加え、ノロ祭祀という琉球王朝の中央集権制由来の信仰が細々と継承されています。かつては島外不出でしたが、後継者不足などを受け、近年では転入者や観光客に公開されるようになりました。とくに島北部の龍郷町・大和村には土俵やトネヤ、アシャゲと呼ば

れる祭場が随所に残されており、琉球と奄美独自の文化の交差を垣間見ることができます。



押田佳子 准教授(押田研究室)
専門 | 緑地計画学／観光まちづくり

岡山県

社会が拒絶した人々のまち ー国立療養所長島愛生園ー

ハンセン病は、らい菌によるもので感染力はあまり強くないとされています。第二次世界大戦後、わが国にも特效薬が入ってきて、すでに1960年代には他者に感染させるような菌をもつ者はいませんでした。

療養所の歴史を紐解くと、国はすべてのハンセン病患者を、療養所に隔離できるように1931年「癩予防法」を制定しました。各県知事らは競って患者を見つけて療養所に隔離すべく、いわゆる「無らい県運動」を展開しました。これを契機にハンセン病患者は地域社会に脅威となる存在であるとだれもが思うようになったのです。

1930年、「国立癩病療養所長島愛生園」が日本初の国立療養所として発足しました^(注)。敷地は島であり、本土からは30mしか離れていません。しかし、この島へ渡った者は再び故郷に帰ることはなく、遺体は島内で火葬され納骨堂に納められました。長島愛生園には、最も多いときに2,011人の入園者がいて、これがひとつの「まち」を形成していました。いまや高齢化が進展し、島内に入園者の姿をほとんど見ることはありません。やがてこの負の遺産もなくなってしまうのでしょうか。

2022年7月末日現在、入園者は110名、平均年齢は85.5歳、平均在園年数60.4年であり、子どものときに親きょうだいから離れて収容され今日に至る者も少なくないことがうかがえます。職員の虐待、食料・医療事情の低下を訴えた長島事件は、当事者による障害者権利獲得運動の発祥ともいわれています。それを契機に、不良患者の特殊療養所が設置され、こうした拘禁施設はどここの療養所にも遺構があります。また、入園者の強制不妊（優生手術）も行われ、戦後も1996年まで続きました。

この隔離政策は、長島愛生園初代園長にもなった医師の光田健輔が提唱、推進したとされ、批判の矢面に立つことが多いのですが、「好奇と差別にあふれた社会から患者たちを守ってくれた」光田医師を慕う患者や知識人もいるところに、この問題の本質があると思いました。

(注)すでに民間の療養所は3件あった。1946年「国立療養所長島愛生園」と名称変更。



八藤後 猛 特任教授(牟田・八藤後研究室)
専門 | 福祉まちづくり／福祉住環境



1. 長島愛生園旧事務本館 現在は「長島愛生園歴史館」。車寄せ部アーチ形開口部や半円形の二階窓、強調されたバラベットなど表現主義的で当時の都会の先端デザインで、建築物として見るべきものがある。2. 回春寮 収容桟橋に隣接していて、入園者は最初にここで診察・診断を受け、私物などを取り上げられ、しばらく経過観察された。外観は普通のRC造であるが、扉、窓枠などのディテールが凝っていて当時の洋式ホテルを彷彿とさせる。事務本館もそうであるように、当時なぜこのような場所にこうしたいちょうな建築物が建てられたのかは謎である。3. 収容桟橋(一部崩壊) 職員や物資の出入りする、本土と30m離れた島の主要な桟橋とは別に、島内の北側にあり本土からは2kmほど離れている。入園者は本土からここを経由して親きょうだいとも別れた。戦後、厚生省(当時)に待遇改善などを求め上京する患者たちの代表は、みんなから見送られてわざわざこの桟橋から出発していることは感慨深い。(いずれも2022年12月3日筆者撮影)

広島県

技術の粋を感じるまち歩き

学会で広島を訪れたことがある。広島に来れば宮島に行きたい人の方が多いと思うが、私は、逆方向の呉を訪れた。呉は昔から軍港である。呉には、大和ミュージアムがある。ぜひ一度行ってもらいたい。流体力学に興味がある私は、戦艦陸奥のスクリューの展示に魅せられてしまった。いかに早く海を進むか、その推進力を生み出す技術の成果物、スクリューは極秘事項である。その技術の「賜物」が間近で見られる。これはすごい。



後藤 浩 教授(沿岸域防災研究室)
専門 | 河川工学／海岸工学



戦艦陸奥のスクリュー

宇和海の風土や生業が創り上げた遊子水荷浦の段畑



宇和海越しにみる遊子水荷浦の段畑

愛媛県宇和海の小さな岬の小集落には、国の重要文化的景観や日本農村百景に選定された、「耕して天に至る」と形容される雄大な雑段状「遊子水荷浦の段畑」があります。この段畑は、宇和海沿岸の山が海に迫る地形に加え、沿岸漁業や湾内養殖業、山地農耕などの半農半漁の生活を営むことで、穏やかに発展を遂げた特色ある文化的景観が魅力的です。過去から継承される地域の記憶と風土を体感できるこの場所で、海辺のノスタルジックな生業風景を満喫してみませんか？



田島洋輔 助教(岡田・田島研究室)
専門 | 環境・防災まちづくり

野中兼山が手がけた美しい港に架かる跳開橋



港内をゆっくり歩きながら巡ってみると、積み重なった歴史の重厚さを感じられる。



手結港可動橋の下を通り抜ける船舶。橋のたもとには開閉時間の案内板も設置されている。

線路が敷かれていないのに遮断機の警報音が鳴り始め、目の前の道路が天に向かって跳ね上がる。ここは、高知県香南市の手結港である。江戸時代初期の明暦3（1657）年に竣工した日本最古の掘り込み港湾ともいわれ、石積み護岸が美しい。この港の入り口に架かる手結港可動橋（正式名称：高知県手結港臨港道路可動橋）は2002年に完成し、長さ約32mで約6分をかけて開閉する。しばらくすると、漁から戻った船が跳ね上がった橋の下を通り、静かな湾内には汽笛が響き渡った。



西山孝樹 准教授
(西山・天野研究室)
専門 | 観光計画

都市との関係性を考えた広島平和記念資料館・平和記念公園

「丹下版モデュロール」「美しいプロポジション」として建築的な評価を受けている施設だが、都市を捉えている点も紹介したい。原爆ドームに向かう景観軸を定め、その軸線上に慰霊碑、後方に資料館を計画している。さらに資料館はピロティで浮かせることで、幅員100mの平和大通りから原爆ドームまでの景観軸を地上レベルで通している。土地や空間を単体としてみるのではなく、都市全体を見据えて設計した丹下健三の視点を、まち科学生にもぜひ持ってもらいたい。



山崎 晋 准教授(山崎研究室)
専門 | 都市計画／建築計画／地域施設マネジメント



ピロティで浮かせ、原爆ドームまで景観軸を通した資料館



原爆ドーム・平和大通りを考慮した都市軸と施設配置計画

段差のまち「尾道」

われわれの世代で「尾道」を知らない人はいない、と思っている。それは、われわれの世代が大林信彦監督の映画『転校生』を観ているからである。「尾道三部作」の最初の作品であり、大林監督が故郷の尾道を舞台にした最初の作品でもある。中学3年生の役を、当時高校生の尾美としのりさんと小林聡美さんが演じ、二人の体が（心が）入れ替わる物語である。そのなかでは、尾道のまちがそのまま舞台となっており、その街並みに強く魅了された人も多く、「尾道」を一気に全国的な観光地にしてしまった。今でいうところの聖地巡礼である。

写真1にもあるように、尾道は海から一気に立ち上がる斜面に沿って形成されたまちである。川のように見えるが、これは瀬戸内海である。川のような海の左上にフェリーの船着き場があり、写真側と対岸をつないでいる。そのフェリーからの街並みの一部が写真2である。

一時期、広島に仕事で通っていたが、その際にはできるだけ途中下車して尾道に立ち寄っていた。ぶらぶら散策してお寺の境内でぼーっとしていたように思う。尾道にはお寺も数多くあるが、そこまで行くのは実は簡単ではない。このような地形のまちなので、ひたすら写真3のような階段、段差、坂道を登っていかなくてはならないのである。このようなまちの高低差を解消するためには、一律に整備された階段ではなく、その場所や傾斜に合わせて独特な段差が至る所に設けられている。あるところまで登ると3方向に分かれて、それぞれが幅も蹴上も異なる段差の連続になっているところも多い。

映画には階段を駆け昇るシーンも出てくるが、このような段差を昇っていくこそが「尾道」であり、人は段差を昇るという動作を通じて「まち」をより深く感じているのだということを理解できる。またこの段差を昇ってみたい、と思う。そのときに、今の自分はこの写真を撮った30年前の自分とどのように違うかを、感じてみたい。



依田光正 教授(依田研究室)
専門 | 福祉のまちづくり／福祉工学



1.「尾道」のまち並み 2. 海から見た段差のまち「尾道」
3. 段差を昇って見た「尾道」



生きた風土から生まれる ー尾道の新風景ー

瀬戸内の豊かな環境が魅力の広島県尾道。JR 尾道駅に降り立つと目の前には穏やかな水面をもつ尾道水道が広がり、みなとまちでは倉庫をリノベーションした「ONOMICHI U2」にサイクリストが集まる。一方、背後は山地が迫り、斜面地には古くからの街並みが残る。ゆえに空き家が多く「空き家バンク」の先駆けとしても有名であるが、今では移住者が多く新たなコミュニティが生まれつつある。古くから残る既存ストックを有効活用しながら新しい文化が築かれていく、そんな尾道の生きた風土を体感してほしい。

尾道さ崎港の遊休化した上屋（倉庫）を改修し、しまなみ海道に集まるサイクリストのためのホテル等に活用。設計は建築家の谷尻誠氏。広島県出身者が創業した民間企業が運営し、地元へ環流する事業スキームも注目。



落合正行 助教(落合研究室)
専門 | 建築計画・建築設計

本年度の進路決定状況（2023年3月6日現在）は表1の通りです。本年度の就職活動は昨年度と比べてやや早まったスケジュールで進められました。就職活動に関連する行事の開催形式は各団体・企業によってさまざまでしたが、秋冬インターンシップ、合同または企業個別のセミナー、説明会是对面とオンラインの併用、WEB試験はテストセンターでの受験、面接試験は対面が目立ちました。オンライン形式での行事は、学生にとっては就職活動の初期に広範囲な情報収集が可能といった利点があります。企業側からは、今まで実績のなかった地域など全国から学生の応募を受け付けられるようになったとの声も聞かれました。一方で、オンラインでは表層的な雰囲気の把握にとどまってしまうことから、面接では対面形式を主としてコロナ禍前と同様の形式で実施されることが多かったようです。そのような状況下において、まちづくり工学専攻・学科の

学生の進路決定率は本年度も概ね堅調に推移してきました。

図1に就職先の業種別割合（進学含む）、表2に就職・進学先一覧、図2にこれまでの修了・卒業生の就職先業種別割合（進学含む）を示します。コロナ禍の昨年度は公務への就職者数の割合が例

表1 就職・進学状況（2023年3月6日現在）

	学部			大学院			合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
在籍者数	81人	33人	114人	8人	3人	10人	124人
就職・進学希望者数	71人	31人	102人	6人	2人	8人	110人
就職者数	62人	25人	87人	6人	2人	8人	95人
進学者数	4人	6人	10人	0人	0人	0人	10人
決定率*	93.0%	100%	95.1%	100%	100%	100%	95.5%

※決定率＝（就職者数＋進学者数）／就職・進学希望者数

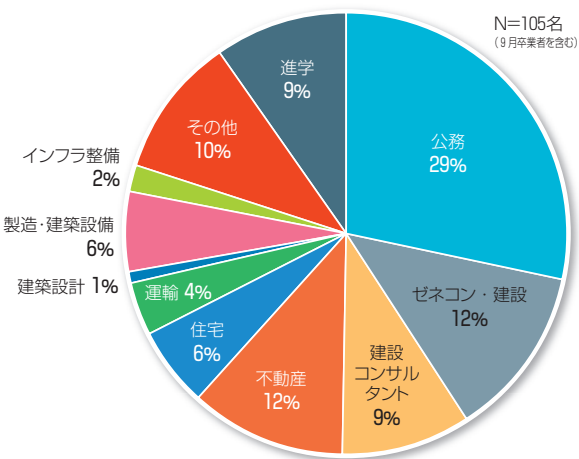


図1 業種別割合

表2 就職・進学先一覧

業種	企業・団体名（□内は人数）	人数
公務	東京都庁[土木4、建築1]、千葉県庁[土木1]、さいたま市役所[土木1、建築1]、千葉市役所[土木2]、横浜市役所[土木4]、我孫子市役所[行政1]、綾瀬市役所[土木1]、宇都宮市役所[土木1]、柏市役所[土木1]、鎌倉市役所[建築1]、川口市役所[建築1]、流山市役所[土木1]、板橋区役所[土木2]、北区役所[建築1]、墨田区役所[土木1]、世田谷区役所[土木2]、千代田区役所[土木1]、練馬区役所[土木1、建築1]	30人
ゼネコン・建設	(株)大林組[建築施工2]、(株)竹中工務店[建築施工1]、高松建設(株)[建築施工1]、(株)長谷工コーポレーション[建築施工1]、(株)植木組[土木施工1]、菊池建設(株)[建築施工1]、生和コーポレーション(株)[建築施工1]、大日本土木(株)[1]、TSUCHIYA (株)[土木施工1]、日工建設(株)[1]、ユニオン建設(株)[建築施工1]	12人
建設コンサルタント	(株)エイト日本技術開発[1]、(株)オオバ[1]、大日本コンサルタント(株)[1]、(株)千代田コンサルタント[1]、(株)都市環境研究所[1]、(株)ティーネットジャパン[1]、ホクト・エンジニアリング(株)[1]、(株)コーセツコンサルタント[1]、(株)東日[1]	9人
不動産	(独)都市再生機構[1]、東急リパブル(株)[1]、三菱地所プロパティマネジメント(株)[1]、山万(株)[1]、東電不動産(株)[1]、日本ハウズイング(株)[2]、(株)アーネストワン[1]、(株)アーキテクトディベロッパー [1]、スターツアメニティー(株)[1] 他	12人
住宅	大和ハウス工業(株)[都市開発1]、住友林業(株)[設計1]、(株)リガード[1]、(株)フレスコ[1]、(株)Stella [1]、ミサワホーム甲信(株)[1]	6人
運輸	東日本旅客鉄道(株)[保線1]、中日本高速道路(株)[土木2]、東京湾横断道路(株)[1]	4人
建築設計	(株)池下設計[1]	1人
製造・建築設備	東京鉄鋼(株)[1]、(株)LIXIL リニューアル[1]、(株)パラダイム[1]、パナソニック EW エンジニアリング(株)[1]、三菱電機ビルソリューションズ(株)[1]、(株)白水社[1]、(株)藤田建装[1]	7人
インフラ整備	東京電力ホールディングス[1]、東電タウンプランニング(株)[1]	2人
その他	(株)星野リゾート[1]、(一社)ツギノバ[1]、(株)KITABA [1]、寿製版印刷(株)[1]、(株)東海ビルメンテナンス[1]、(株)ナプス[1]、(株)ビルディット[1]、(株)レック[1] 他	12人
進学	日本大学大学院理工学研究科博士前期課程まちづくり工学専攻[9] 他	10人

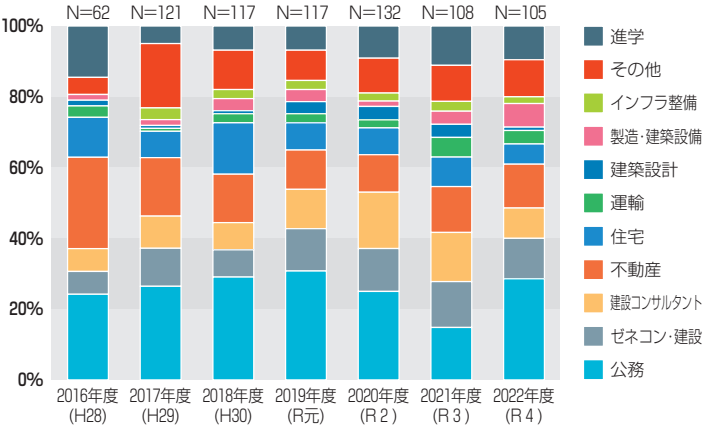


図2 まちづくり工学専攻修了生・まちづくり工学科卒業生の就職先業種別割合（進路未決定者を除く。2022(令和4)年度は2023年3月6日現在）

年より激減していましたが、本年度はコロナ禍前とほぼ同じ水準に回復しました。住宅へは過去7年間で最も少なく、製造・建築設備へは最も多くの就職者がありました。地域まちづくり活動団体や旅

行業への就職者があったことも本年度の特徴といえます。職種で見ますと、公務では建築職での就職者がやや増加し、ゼネコン・建設では建築施工職での就職者が多数を占めました。

令和4年度 まちづくり工学科研究業績

審査付き論文

菊原綾乃・阿部貴弘：神田川及び日本橋川における水辺空間利用の歴史の変遷に関する研究，土木学会論文集 D3（土木計画学），土木学会，Vol. 77，No.5，I_483-I_499，2022.5.

野中美貴子・阿部貴弘：インフラツーリズムの効果に関する研究，土木学会論文集，土木学会，vol.79，No.2，pp.1-13，2023.2.

落合正行・岡田智秀・初本みなみ：わが国のみなとまちづくりにおける「倉庫リノベーション」の促進方策に関する研究―「みなとオアシス」登録 16 港の法制度に着目して―，土木学会論文集 D3（土木計画学），土木学会，Vol.77，No.5，I_321-I_331，2022.4.

勇崎大翔・岡田智秀・大塚拓巳：伊豆半島「津波対策地区協議会」を通じてみた津波防災まちづくりの協議プロセスに関する研究，土木学会論文集 B3（海洋開発），Vol.78，No.2，2022.6

栗本賢一・岡田智秀・落合正行：東京臨海部における産業集積実態の把握ならびにその動学的外部性に関する研究―町丁目単位に着目した港湾・空港産業および知識集約型ビジネスサービス業を対象とした分析―，日本都市計画学会都市計画論文集，日本都市計画学会，Vol.57，No.2，pp. 263-278，2022.10.

樋口伊吹・岡田智秀・田島洋輔：地方小都市におけるウォーターフロント開発を中心としたみなとまちづくりに関する研究―七尾フィッシャーマンズワーフの事業内容とその空間的特徴に着目して―，土木学会論文集 D3（土木計画学），土木学会，No.78，Vol.6，pp. II_425- II_438，2022.4.

松嶋健太・田島洋輔・吉岡崇仁：離散集落での木質バイオマス燃料活用システムの導入可能性に関する研究，土木学会論文集 G（環境），土木学会，No.78，Vol. 2，pp.81-86，2022.6.

田島洋輔・岡田智秀・水石知佳：都内水上交通の魅力向上に資する海上景観特性と空間的特徴に関する研究―天候の違いに伴う航路指標の導出―，土木学会論文集 B3（海洋開発），No.78，Vol. 2，pp. I_331-336，2022.10.

後藤浩：防潮堤の防災機能の強化・維持対策で設置される捨石補強工の周辺景観への影響について，第29回海洋工学シンポジウム論文集，日本海洋工学会・日本船舶海洋工学会，Vol.29，OES29-0006，2022.3.

後藤浩・山下三男・岡田健司・石川眞：ルーフトレーンから直接道路へ排水される雨水の街渠内の流れへの影響に関する考察，下水道協会誌論文集，日本下水道協会，Vol.59，No.714，pp.116-123，2022.4.

森安祥大・後藤浩・前野賢彦：洪水によって冠水するエリアに立地する事業所・農家・一般家屋からの危険物質の流出に関する考察，土木学会論文集

F6（安全問題），土木学会，Vol.78，No.2，pp.93-103，2023.2.

西山孝樹・藤田龍之・藤田宏之：井澤弥惣兵衛為永に関する既往研究と一次史料―紀州藩内の事績を中心として―，土木学会論文集 D2（土木史），土木学会，Vol.78，No.1，pp.30-46，2022.5.

山崎晋：駅型保育施設における園外保育の移動経路と道路整備環境の実態把握―関東圏主要鉄道会社7社の駅型保育施設を対象として―，日本建築学会地域施設計画研究，日本建築学会，第40号，pp.9-14，2022.7.

山崎晋：緊急事態宣言下の外出自粛期間における幕張ベイタウンの中庭利用実態と居住者評価，日本建築学会技術報告集，日本建築学会，第71号，pp.340-345，2023.2.

秋元美咲・依田光正：歩行補助つえ未使用者と使用者の認識の違いと歩行補助つえの役割，福祉文化研究，日本福祉文化学会，Vol.30，pp.95-106，2022.3.

小木曾裕：原宿表参道の並木と建築物との関係に関する研究，樹木医学研究，樹木医会学会，Vol. 26，No. 3，pp.123-124，2022.4.

招待論文（審査付き）

後藤浩：災害に強い病院作り―わが国の医療機関の洪水に対する防災・減災対策の考察，Medical Gases，日本医療ガス学会，Vol.24，No.1，pp.19-25，2022.7.

学会誌報告（査読なし）

佐下橋あゆみ・押田佳子：東京都心三区における存続神社の構成要素に関する研究―小規模神社に着目して―，都市計画報告集，Vol. 21，No. 3，pp. 278-285，2022.12.

口頭発表（審査なし）

秋元美咲・依田光正：つえ未使用者のつえ使用に関する認識調査，第31回ライフサポート学会フロンティア講演会，2022.3.8.

森安祥大・後藤浩・前野賢彦：水害によって浸水した地域の家屋に保管されている危険物質流出の可能性の考察，第49回土木学会関東支部技術研究発表会，2022.3.8-10.

丸山純矢・仲村成貴：市境界周辺に居住する住民を想定した大規模水害時の避難行動シミュレーション，第49回土木学会関東支部技術研究発表会，2022.3.8-10.

大久保美里・松本流成・仲村成貴：構造解析を目的とした SfM による部材断面の測定方法の検討，第49回土木学会関東支部技術研究発表会，2022.3.8-10.

柿原英人・仲村成貴・新井寿昭：傾斜角と加速度の同時モニタリングシステム開発に向けたセンサ特性の把握，第49回土木学会関東支部技術研究発表会，2022.3.8-10.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：『徳川実紀』にみる江戸幕府下の治山治水政策に関する一考察―「山川掟」の記述を対象として―，土木学会第42回土木史研究発表会，2022.6.18-19.

秋元美咲・依田光正：段差昇降動作における歩行補助つえの位置変化に関する基礎的分析，日本人間工学会第63回大会，2022.7.31.

鈴木彩加・田中賢：信号機のない横断歩道での一時停止率の上位県と下位県の交通マナーと交通安全運動の比較研究，日本福祉のまちづくり学会全国大会，2022.9.1.

鈴木彩加・田中賢：マイノリティの国々で日本国大使館が提供する情報と取組に関する研究，日本福祉のまちづくり学会全国大会，2022.9.1.

栗本賢一・岡田智秀・落合正行・菊池晃央：東京ウォーターフロントにおける都市政策の実現性評価に関する研究（その3）―品川区を対象とした政策実績報告書の実態および空間分布の特徴―，2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演会・建築デザイン発表会，2022.9.5-8.

落合正行・岡田智秀：遊休建物の地域的活用に関する基礎的研究（その3）―東京都文京区「こびなたぼっこ」の取り組みに着目して―，2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演会・建築デザイン発表会，2022.9.5-8.

久保凜一郎・岡田智秀・落合正行：都市部の市街地における「倉庫リノベーション」のエリア展開方策に関する研究―東京都千代田区東神田地区および中央区馬喰横山地区を対象として―，2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演会・建築デザイン発表会，2022.9.5-8.

高瀬大樹・南部世紀夫・樋野公宏・田中賢：周辺環境の客観的指標による犯罪不安感推定手法の提案―夜間の大学キャンパスを対象として―，2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演会・建築デザイン発表会，2022.9.5-8.

宮瀧聡史・田中賢：秩父3霊場のバリアフリーに関する比較研究，2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演会・建築デザイン発表会，2022.9.5-8.

鈴木彩加・田中賢：信号機のない横断歩道での一時停止率の上位県と下位県の交通マナーの比較研究，2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演会・建築デザイン発表会，2022.9.5-8.

笹村正大・田中賢：東京都・門前仲町のワンルームマンション入居者の地域交流について―ワンルームマンション入居者の地域交流に関する研究（その1）―，2022年度日本建築学会大会（北海道）学術講演

演会・建築デザイン発表会, 2022.9.5-8.

秋元美咲・依田光正：まちの建築物における AED 設置状況調査を通じたまちの理解への基礎的検討, 2022年度日本建築学会大会(北海道)学術講演会・建築デザイン発表会, 2022.9. 5-8.

森安祥大・後藤浩・前野賀彦：洪水による浸水被害発生時の農家等からの農業流出リスクに関する考察, 令和4年度土木学会全国大会第77回年次学術講演会, 2022.9.15-16.

田島洋輔・岡田智秀・落合正行・押田佳子・依田光正：オンラインによるまちづくりワークショップの試みー学内講義の取組成果とアンケート調査からみた実践時の留意点ー, 令和4年度土木学会全国大会第77回年次学術講演会, 2022.9.15-16.

藤山遼太・岡田智秀・田島洋輔：静岡県遠州灘地域における津波避難施設の立地特性に関する研究ー命山(避難マウンド)・避難タワー・避難ビル周辺の土地利用に着目してー, 令和4年度土木学会第77回年次学術講演会, 2022.9.15-16.

菊池晃央・岡田智秀・田島洋輔：新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史的変遷に関する研究ー昭和戦前期の空間形成と利用実態についてー, 令和4年度土木学会第77回年次学術講演会, 2022.9.15-16.

後藤浩・石川眞：好気性発酵乾燥方式によるごみ処理システムのわが国への導入の可能性について, 令和4年度土木学会全国大会第77回年次学術講演会, 2022.9.15-16.

石田愛奈・押田佳子・佐下楯あゆみ：伊豆高原地域におけるペットツーリズムの現状に関する基礎的研究, 日本環境共生学会 第25回(2022年度)学術大会, 2022.9.25.

西山晃太・山崎晋：百貨店撤退後の跡地活用実態に関する研究ー中心市街地活性化基本計画との関係性についてー, 日本都市計画学会2022年度(第33回)中部支部研究発表会, 2022.10.7.

梅澤駿・岡田智秀・落合正行：わが国の臨港地区における分区指定状況からみる港湾空間特性に関する研究ー国際戦略港湾および国際拠点港湾の23港を対象としてー, 土木学会第66回土木計画学研究発表会・秋大会, 2022.11.11-13.

菊池晃央・岡田智秀・田島洋輔：新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史的変遷に関する研究ー明治期から大正期(1874～1926年)の空間形成と利用実態についてー, 土木学会第66回土木計画学研究発表会・秋大会, 2022.11.11-13.

勝部悠己・阿部貴弘：鬼怒川流域市町村の小・中学校における防災教育の実態, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

須藤嵩晃・大野琴実・阿部貴弘：複合書店に関する基礎的研究ー東京都心6区の複合書店を事例としてー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

鈴木杏子・阿部貴弘：寺院の立地と宗派に関する一考察ー三浦半島に立地する寺院を対象としてー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

金成美侑・岡田智秀・落合正行・久保凜一郎：倉庫形態ごとにもみる転用倉庫の活用特性に関する研究ー

東東京エリア5地区を対象としてー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

小杉匠平・岡田智秀・落合正行：都市部における遊休建物を活用した「地域の居場所」の計画プロセスに関する研究ー(その3)東京都文京区の発着者の異なる2事例を比較してー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

吉中美波・岡田智秀・落合正行・栗本賢一、菊池晃央東京ウォーターフロントにおける都市政策の実現性評価に関する研究ー(その4)江戸川区を対象とした政策実績報告書の実態把握ー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

岩村渚・岡田智秀・落合正行・梅澤駿：わが国の臨港地区における分区の運用実態に関する研究ー国際戦略港湾および国際拠点港湾の「無分区」に立地する一般開放施設に着目してー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

大屋舞佑子・岡田智秀・落合正行・松岡七海：都市型人工海浜の整備促進方策に関する研究ー(その3)東京湾沿岸の人工海浜全9件の背後地域の用途地域および立地施設に着目してー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

甘糟木帆・岡田智秀・落合正行・田島洋輔：歴史変遷にみる「まちづくり」のテーマに関する研究ー1950年以降のJ-STAGE 登録文献を対象としてー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

小野寺亮太・岡田智秀・田島洋輔：中山間地域における脱炭素循環型地域づくりに関する研究ー岡山県真庭市における木質バイオマス事業の空間的波及状況ー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学術講演会, 2022.12.1.

寺島翔・岡田智秀・田島洋輔：研究論文からみたグリーンインフラの研究実態に関する研究ー研究エリア別の研究動向とその特徴ー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学術講演会, 2022.12.1.

豊田峻介・岡田智秀・田中絵里子・三浦靖貴：わが国におけるワーケーションの運用実態と実施方策に関する研究ー(その3)新聞情報にみるワーケーション3要件からみた施設・空間の特徴ー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学術講演会, 2022.12.1.

村上ゆうみ・岡田智秀・田島洋輔・菊池晃央：新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史的変遷に関する研究ー平成前期(1989～2005年)の空間形成と利用実態に着目してー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学術講演会, 2022.12.1.

松本怜土・岡田智秀・田島洋輔・藤山遼太：静岡県遠州灘地域における津波避難施設「命山」の整備実態に関する研究ー現存する「命山」の土地利用規制に着目してー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学術講演会, 2022.12.1.

三浦靖貴・岡田智秀・田中絵里子・豊田峻介：わが国におけるワーケーションの運用実態と実施方策に関する研究ー(その4)新聞情報にみるワーケーション3要件からみた事例の運用実態ー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学術講演会, 2022.12.1.

佐倉諒哉・押田佳子・石田愛奈：わが国の防災教育における体験談の活用実態に関する研究ー各都道府県発行の防災教育冊子に着目してー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

加藤由菜・押田佳子：外国人居留地における居留生活評価の変容に関する研究ー関東大震災以前の横浜を対象としてー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

小柴葉月・押田佳子：コロナ禍におけるテーマパーク運営の変容に関する研究についてーキャラクターグリーティングに着目してー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

佐川凜・押田佳子：福島県におけるホープツーリズムの運用実態に関する研究, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

小木曾裕：エクトール・ギマールの設計によるパリ・メトロの歴史と現状に関する考察, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

野々村雄介・小木曾裕：南町田第一地区土地区画整理事業の歴史の基礎的研究, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

渡辺来瑠美・小木曾裕：文京区のゆかりの多い文人の暮らしに関する考察ー夏目漱石を事例としてー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

木村真梨子・小木曾裕：習志野市ハミングロードの歴史的変遷から捉えた基礎的研究, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

石塚菜々子・植田奈津芽・氏家日花莉・小木曾裕：樹木と建物の関係性による軽井沢別荘地の景観形成についての研究, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

植田奈津芽・石塚菜々子・氏家日花莉・小木曾裕：浅間山噴火の歴史と植林による軽井沢エリアへの影響についての研究, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

氏家日花莉・石塚菜々子・植田奈津芽・小木曾裕：軽井沢の都市計画区域内にある文化・宿泊施設のクラマツの実態に関する研究, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

戸塚夏萌・後藤浩：低地帯の都市部における工場の緑地を利用した浸水レベル軽減の提案, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

森安祥大・後藤浩・前野賀彦：水害により海へ流入した危険物質の堆積エリアの推定, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

笹村正大・田中賢：東京都・門仲仲町のワンルームマンション入居者の地域交流についての研究, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

福永裕大・田中賢：民間企業が参入した郊外住宅団地再生についての研究ー横浜市 の2地区の事例からー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

萩原菜々華・田中賢：避難訓練コンサートに関する研究, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

鈴木彩加・田中賢：GDP 下位国で日本国大使館が提供する情報と取り組みに関する研究ー日本文化に関する情報発信ー, 令和4年度(第66回)日本大学理工学部学術講演会, 2022.12.1.

内城知将・田中賢：動物公園の園内マップのユニバーサルデザイン化に関する研究，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

大塚晴希・田中賢：劇場・ホールのバリアフリーと芸術鑑賞の多様性についての研究，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

坂田旭・仲村成貴：千葉県および茨城県内の飛び地における防災に関する初期調査，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

尾崎拓洋・仲村成貴：災害想定を踏まえたインフラ施設の老朽化に対する基礎的調査，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

鈴木健太・宇津木優光・仲村成貴：地域建設企業が担う災害復旧活動の認知向上策に関する基礎的検討，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

来栖敬佑・西山孝樹・天野光一：オーストラリア・メルボルンにおけるフットパスダイニングの運用とその実態に関する基礎的研究—フットパスダイニングの設置プロセスに着目して—，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

佐藤友梨・西山孝樹・天野光一：わが国におけるリゾート地での過ごし方に関する基礎的研究—トリップアドバイザーにみるクラブメッド北海道トマムの口コミに着目して—，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

那須裕人・西山孝樹・天野光一：わたらせ渓谷鐵道における地方鉄道活性化方策の実施—ネットワークデータを資料として—，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

青鹿史弥・西山孝樹・天野光一：千葉県松戸市の常盤平団地における「通り」のイメージに関する基礎的研究—さくら・けやき・ゆりのき・さるすべりの4通りを対象として—，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

杉山浩介・西山孝樹・天野光一：葦山反射炉とその周辺における来訪者受入態勢とその現状—行政・地元企業の活動および来訪者の観光行動に注目して—，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

阿部聖・西山晃太・山崎晋：百貨店撤退後の跡地活用実態に関する研究—行政機能導入に伴う跡地再活用と利便性向上に着目して—，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

野中優希・山崎晋：空家特措法による代執行対象の立地状況及び跡地活用にに関する研究，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

山田大輔・山崎晋：空き家の助成制度に関する研究—1都3県を対象として—，令和4年度（第66回）日本大学理工学部学術講演会，2022.12.1.

小木曾裕：浅間山大噴火の歴史と植林による軽井沢エリアの樹木の実態に関する研究，日本樹木医学会第27回大会，2022.12.4.

秋元美咲・依田光正：段差昇り動作における歩行補助つえの使用特性に関する基礎的分析，日本人間工学会第52回関東支部大会，2022.12.4.

菊池晃央・岡田智秀・田島洋輔：新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史の変遷に関する研究—

明治期から昭和戦後期までを対象として—，第18回土木学会景観・デザイン研究発表会，2022.12.10-11.

品田康太・阿部貴弘：北海道におけるインフラツーリズムの展開方策に関する研究，第37回日本観光研究学会全国大会，2022.12.18.

本間義弘・押田佳子・安田有希：岩崎三代にみる大和郷計画の変容に関する研究，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

安田有希・押田佳子・照井進介：柳澤吉保期における六義園のデザイン変容に関する考察，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

佐下楯あゆみ・押田佳子：千代田区における小規模神社の存続可能性に関する研究—町会管理の7社に着目して—，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

山地康介・押田佳子・高野康生／登録観光地域づくり法人の連携実態に関する研究—（その1）設立及び継続プロセスに着目して—，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

高野康生・押田佳子・山地康介：登録観光地域づくり法人の連携実態に関する研究—（その2）設立年及び主要コンセプトに着目して—，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

竹村太喜・押田佳子：都立文化財庭園におけるSNSの発信実態に関する研究，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

久保志織・押田佳子：関東大震災以前における日比谷公園の評価に関する研究，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

小木曾裕：エクトール・ギマルの設計によるパリ・メトロの出入口の歴史と現状に関する考察，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

野々村雄介・小木曾裕：南町田第一地区土地区画整理事業の歴史と事業に関する研究，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

渡辺来瑠美・小木曾裕：文京区のゆかりの多い文人が過ごした土地での活躍の関係について—文京区を事例として—，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

木村真梨子・小木曾裕：習志野市ハミングロードの歴史の変遷と現状に関する研究，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

木村誠也・山崎晋：UR団地のオープンスペース改修に対する居住者評価及び利用実態に関する研究—洋光台の団地再生に着目して—，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

渡辺奈々美・寺久保諒・山崎晋：園庭を持たない駅型保育園の園外活動時に利用する公園の整備環境に関する研究，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

寺久保諒・渡辺奈々美・山崎晋：園庭を持たない駅型保育園の園外活動時に利用する公園の実態と選定状況に関する研究，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

岡田美佳・沼田悠杜・河野和輝・森下源己・山崎晋：バリアフリー重点整備地区内にある駅型保育園

の立地状況に関する研究，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

平安山侑乃・加藤凜太郎・香取潤・下田恵里・中谷元・山崎晋：都市再生特別地区における歩行者ネットワークの整備実態と駅との関係性に関する研究，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

西山晃太・山崎晋：百貨店撤退後の跡地活用実態に関する研究—屋外空間の整備実態に着目して—，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

生駒岳大・神田侑伎乃・山崎晋：大学キャンパスにおける一般開放の整備実態と空間特性に関する研究その1—屋内・屋外のそれぞれの開放に着目して—，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

神田侑伎乃・山崎晋：大学キャンパスにおける一般開放の整備実態と空間特性に関する研究その2—屋内・屋外の開放空間の関係性に着目して—，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

謝培煬・神田侑伎乃・山崎晋：2000年設置以降の大学キャンパスの地域開放に関する研究—敷地境界における塀の設置状況に着目して—，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

中里勇太・山崎晋：東京のしゃれた街並みづくり推進条例における空地利用の特徴と使われ方の変遷についての研究—コロナ禍の空地活用に着目して—，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

中川一樹・山崎晋：都心で活用される公開空地の実態に関する研究—東京のしゃれた街並みづくり推進条例における活用公開空地の関連性について—，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

田島洋輔・釧持一真・結城陽平：わが国におけるグリーンインフラの整備実態に関する研究—グリーンインフラ大賞34事例にみる住民関与の類型とその特徴—，自然環境復元学会第23回全国大会，2023.2.17.

尾崎潤生・田島洋輔・小野寺亮太：復興型スマートコミュニティの事後評価に関する研究—東日本大震災被災地を対象としたスマートコミュニティ導入促進事業に着目して—，自然環境復元学会第23回全国大会，2023.2.17.

寺島翔・岡田智秀・田島洋輔：わが国におけるグリーンインフラの研究実態に関する研究—研究論文と実施事例からみたエリアごとの研究方針—，自然環境復元学会第23回全国大会，2023.2.17.

ポスター発表（審査なし）

森安祥大・後藤浩・前野賀彦：浸水した都市域にある施設が保有する危険物質の下水管渠への流入に関する考察，第59回下水道研究発表会，2022.8.3.

石塚菜々子・植田奈津芽・氏家日花莉・小木曾裕：浅間山大噴火の歴史と植林による軽井沢別荘地への影響についての研究，令和4年度日本造園学会関東支部大会，2022.12.18.

研究業績につきましては日本学術会議協力学術研究団体の所属機関における論文および発表、理工学部及び工学部学術講演会での発表を掲載しております。ご了承ください。

令和4年度後期 “まち” 行事・イベントカレンダー

10/22(土) 29(土) 2年生オリエンテーション (まちづくり現地見学会) 【対面実施】

教員が各コースに分かれ、学生との親睦を深めました。実際のまちを訪れ、専門的なまちの見方や捉え方を学びました。

10/30(日) 船橋キャンパスウォッチング 【対面実施】

場所：船橋キャンパス ファラディホール
「学科別入試相談会」へ大勢の皆さんにお越しいただきました。



Aコース 五感で楽しむ秋の神楽坂まち歩き ～徹底解説！神楽坂界隈の新旧まちづくりプロジェクト～
阿部 貴弘



Bコース 東京ウォーターフロントの見方・楽しみ方
岡田 智秀



Cコース 臨海副都心と東京港～「埋立地にできたまちの現状」と「海外からの輸入品の99.6%は港から日本へ入ってくる」を体感しよう～
後藤 浩



Dコース 「江戸東京たてもの園」からまちなみを考える
田中 賢



Eコース 小江戸川越まちあるき「名所+α巡り」
仲村 成貴



Fコース 世界標準のユニバーサルデザイン設備
依田 光正



Gコース 東京の近代土木遺産を訪ねる
天野 光一



Hコース お洒落な原宿・表参道の歴史と今～都市計画とランドスケープの視点で探訪～
小木曽 裕



Iコース 参道の魅力ー中山法華経寺参道・柴又参道の二つの参道の比較ー
高村 善晴



Jコース あなたの知らないディープなまち秋葉原の歴史と文化探訪～青果市場から電気街、そしてサブカルチャーの殿堂へ
八藤後 猛



Kコース 武家の古都『鎌倉』まち歩き～オーバーツーリズム観光地でのコンテンツツーリズムを考える～
押田 佳子



Lコース 通り過ぎる場所から滞在する場所へ。変わりゆく日本の空の玄関口、成田空港周辺地域を巡る
西山 孝樹



Mコース 横浜みなとみらいエリア散策～横浜開港から今までのまちの変遷と都市計画手法を学ぶ～
山崎 晋



Nコース 東東京エリアの「倉庫リノベーション」の魅力巡り
落合 正行



Oコース 川面からのまち巡りー環境・防災の視点から江戸・東京を探索するー
田島 洋輔



Pコース やさしいまちってどんなまち～UDの視点で歩く世田谷区梅が丘～
牟田 聡子

11/11 金 第10回サイエンスカフェ～あなたの世界をより広げてみませんか～【対面・オンライン（LIVE 配信）併用実施】

場所：船橋キャンパス14号館 1階エントランスホール
「理工学部で緑を語ろう～多様なランドスケープの世界にご招待」と題して、押田准教授が短期大学部建築・生活デザイン学科山崎誠子准教授と共に実施しました。

※サイエンスカフェは、くつろいだ雰囲気の中で教職員と学生の皆さんが相互理解を深め語り合う交流の場です。

12/1 水 令和4年度（第66回）理工学部学術講演会【対面実施】

今年も恒例の理工学部学術講演会が開催され、まちづくり工学科からは以下の学生が優秀発表賞を受賞しました。おめでとうございます

氏名	研究室名	発表題目
森安 祥大 (博前2年)	後藤	水害により海へ流入した危険物質の堆積エリアの推定
加藤 由菜 (4年)	押田	外国人居留地における居留生活評価の変容に関する研究 ―関東大震災以前の横浜を対象として―
鈴木 杏子 (4年)	阿部	寺院の立地と宗派に関する一考察 ―三浦半島に立地する寺院を対象として―
寺島 翔 (4年)	岡田・田島	研究論文からみたグリーンインフラの研究実態に関する研究 ―研究エリア別の研究動向とその特徴―
那須 裕人 (4年)	西山・天野	わたらせ渓谷鐵道における地方鉄道活性化方策の実施 ―ネットワークデータを資料として―
吉中 美波 (4年)	岡田・田島	東京ウォーターフロントにおける都市政策の実現性評価に関する研究 ―(その4)江戸川区を対象とした政策実績報告書の実態把握―



12/10 土 まちづくり工学専攻博士前期課程 第2回修士論文審査会【対面・オンライン（LIVE 配信）併用実施】

場所：駿河台校舎タワー・スコラ S204教室／Zoom
博士前期課程2年生の8名が発表を行いました。



12/13 火 日本大学習志野高等学校 CST コース 2年生駿河台校舎見学会【対面実施】

場所：駿河台校舎タワー・スコラ13階

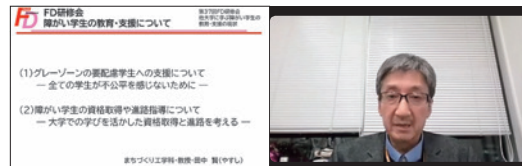
まちづくり工学科製図室3

日本大学習志野高等学校 CST コース高校2年生の皆さんへ、まちづくり工学科での学びや特色を説明した後、御茶ノ水界隈のまち歩きも実施しました。



12/14 水 令和4年度（通算第37回）FD 研修会【オンライン実施】

「他大学に学ぶ障がい学生の教育・支援の現状」と題して、田中賢教授が理工学部教職員を対象とした研修会で講演を行いました。



12/17 土 日本大学習志野高等学校 CST コース 研究成果発表会【対面実施】

場所：日本大学習志野高等学校2階 生徒ラウンジ

日本大学習志野高等学校のCSTコース3年生5名が、まちづくり工学科の教員と1年間取り組んできた研究成果を在校生、保護者の皆さんの前で発表を行いました。



11/8 火 - 2/28 火 令和4年度企業セミナー【対面実施】

下記の企業に参加いただき、学部3年生・院1年生を主とする全年をを対象として対面形式で開催しました。

〈総合建設業〉 大林組／熊谷組／佐藤工業／大和リース／フジタ

〈建設コンサルタント〉 オオバ／オリエンタルコンサルタンツ／オリジナル設計／国土技術研究センター／中央コンサルタンツ／千代田コンサルタント／日本工営／日本工営都市空間／日本振興／パシフィックコンサルタンツ／パスコ／ホクト・エンジニアリング／UR リンケージ／リテックエンジニアリング

〈建築設計〉 JR 東日本建築設計／トランスコスモ

〈不動産業〉 JR 東日本ビルテック／大京／テンワス／都市再生機構／中日本エクス／長谷工不動産／横浜市住宅供給公社

〈運輸業〉 東日本旅客鉄道／東海旅客鉄道／中日本高速道路

〈住宅〉 大和ハウス工業

〈製造業・建築設備〉 アビリティーズ・ケアネット／三協フロンテア／日軽エンジニアリング／日設／ヨシモトポール

〈エネルギー・通信〉 東電タウンプランニング

〈造園業〉 西武造園

2/15 卒業研究発表審査会【対面実施】

4つのユニットに分かれ、1年間取り組んできた卒業研究の審査が実施されました。各発表では、教員からの鋭い質問やコメントに対し、1年間の成果を踏まえて一生懸命に回答する多くの学生の姿が見られました。



2/21 修士論文最終審査会【対面実施】

氏名	発表題目
 神田 侑伎乃	大学キャンパスにおける一般開放の実態と空間特性に関する研究 一関東圏内のキャンパスを対象として一
 菊池 晃央	新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史の変遷に関する研究 一明治期から平成期までの空間形成と利用実態に着目して一
 久保 凜一郎	東東京エリアにおける遊休倉庫を活用した「エリアリノベーション」の促進方策に関する研究 一都内5地区の倉庫街を対象として一
 佐下 橋 あゆみ	町会関与の小規模神社における今後のあり方に関する研究 一東京都千代田区に着目して一
 笹村 正大	ワンルームマンション入居者と地域の交流に関する研究 一都市型関係人口の創造一
 品田 康太	北海道におけるインフラツーリズムに関わる主体間連携に関する研究
 福永 裕大	郊外住宅団地の再生と持続可能な住宅地の形成に関わる研究 一横浜市における民間・地域・行政の協働の取り組みに着目して一
 森安 祥大	洪水によって冠水する都市の点源から流出する危険物質への対策に関する考察

3/6 卒業発表・修了発表

本年度の卒業生数104名（9月卒業3名を含む）、修了者数は8名です。

令和4年度 まちづくり工学科各賞受賞者

優等賞

- 山崎 詩歩(阿部研究室)
- 鈴木 杏子(阿部研究室)
- 境野 哲美(阿部研究室)

桜工賞

- 4年 那須裕人(西山・天野研究室)
- 4年 三浦靖貴(岡田・田島研究室)

理工学部校友会まちづくり部会特別賞

- 4年 小野寺亮太(岡田・田島研究室)
- 4年 佐藤友梨(西山・天野研究室)
- 4年 田中南穂(田中研究室)
- 4年 豊田峻介(岡田・田島研究室)
- 4年 山崎詩歩(阿部研究室)

最優秀修士論文賞

- 菊池 晃央(指導教員：岡田智秀・田島洋輔)：新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史の変遷に関する研究一明治期から平成期までの空間形成と利用実態に着目して一

最優秀卒業論文発表賞

- 松本和樹(仲村研究室)：土地の起伏による歩行速度の変化を考慮した越境避難シミュレーション

優秀卒業論文発表賞

- 岩村 渚(落合研究室)：わが国の臨港地区における「無分区」の運用実態に関する研究一国際戦略港湾および国際拠点港湾に立地する一般開放施設に着目して一
- 鈴木健太(仲村研究室)：地域建設企業が担う災害復旧活動の内容分析一住民の目に留まる活動内容一
- 田中南穂(田中研究室)：江ノ島電鉄における勝手踏切の歴史とその対策
- 那須裕人(西山・天野研究室)：わたらせ渓谷鐵道における地方鉄道活性化方策の実施に関する研究一ネットワークデータを研究対象として一
- 安田有希(押田研究室)：柳澤吉保期における六義園のデザイン変容に関する考察
- 大野琴実(阿部研究室)：東京都心6区における複合書店の形成過程に関する研究一複合要素と店内レイアウト・外観形成との関係に着目して一
- 木村真梨子(小本曾研究室)：習志野市を縦断するハミングロードの現状と実態に関する考察

桜まち卒業論文賞

- 大屋舞佑子(落合研究室)：背後の土地利用からみた都市型人工海浜の整備方策に関する研究一東京湾沿岸の人工海浜全9事例を対象として一
- 加藤由菜(押田研究室)：横浜居留地における外国人の手記より捉えたまちづくりプロセスに関する研究

- 甲平彩海(牟田・八藤後研究室)：仮設住宅入居方法と入居後の住民の支援について
- 佐藤友梨(西山・天野研究室)：リゾート地行動の能動性に関する基礎的研究一日本人とフランス人の過ごし方を比較して一
- 鈴木杏子(阿部研究室)：寺院の立地と宗派に関する一考察一三浦半島に立地する寺院を対象として一
- 寺島 翔(岡田・田島研究室)：わが国におけるグリーンインフラの研究実態に関する研究一研究論文と実施事例からみたエリアごとの研究方針一
- 吉中美波(岡田・田島研究室)：東京ウォーターフロントにおける都市政策の空間分布に関する研究一東京臨海6区の政策実績報告書に着目して一
- 久保志織(押田研究室)：戦前における日比谷公園の評価プロセスに関する研究
- 小杉匠平(落合研究室)：遊休建物を活用した「地域の居場所」の計画プロセスに関する研究一東京都文京区内の発着者が異なる2事例を比較して一
- 小寺夏葵(岡田・田島研究室)：わが国におけるまちづくりの概念とその歴史の変遷に関する研究一明治期から昭和中期(1941～1969年)の雑誌記事に着目して一

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

【受賞（学会・協会・業界団体・行政等）】

■ 特任教授 天野光一

令和4年板橋区制施行90周年記念感謝状受賞者

対象：永年にわたり地方自治の発展に尽力したため
受賞年月日：2022年10月1日

■ 博士前期課程2年 佐下橋あゆみ・准教授 押田佳子 2022年度日本造園学会関東支部大会口頭発表部門「奨励賞」

対象：千代田区における小規模神社の存続可能性に関する研究―町会管理の7社に着目して―
受賞年月日：2022年12月18日



■ 博士前期課程1年 西山晃太（指導教員 山崎晋）

日本コンストラクション・マネジメント協会2022年度学生エッセイコンテスト「優秀賞」

対象：私の近くにあるマネジメント
受賞年月日：2023年1月31日



【書籍】

■ 准教授 押田佳子

書籍名：『神宿る隣の自然 祭祀一体の緑から地域の健全な暮らし方を探る』（PHP エディターズ・グループ）※分担執筆

発行年月日：2023年1月13日

■ 特任教授 八藤後 猛・教授 田中 賢

書籍名：『福祉住環境コーディネーター検定試験® 2級公式テキスト〈改訂6版〉』（東京商工会議所）

発行年月日：2022年2月25日

書籍名：『福祉住環境コーディネーター検定試験® 3級公式テキスト〈改訂6版〉』（東京商工会議所）

発行年月日：2022年2月25日

「教職員・学生の活躍」の情報は、随時編集までお寄せください。なお、本年度の学会等での発表は、次号（10月発行予定）にまとめて掲載します。

【新聞に掲載】

■ 教授 阿部貴弘

読売新聞（東京朝刊）「史跡隣にマンション計画 海老名・相模国分寺跡」

発行年月日：2022年11月1日

■ 特任教授 八藤後 猛

読売新聞（朝刊）「子どもの転落防げ」

発行年月日：2022年11月16日

中日新聞（朝刊）「『大掃除中 幼児に目配り』を事故防止考える機会に」

発行年月日：2022年12月23日

■ 客員教授 清水英範

日刊建設工業新聞「G空間 EXPO 防災・減災や地方創生などテーマに最先端の技術・サービス紹介」

発行年月日：2022年11月22日

建設通信新聞「G空間 EXPO 開幕 最新技術に触れ新たなアイデアを」（コメント掲載）

発行年月日：2022年12月7日

日本工業経済新聞「新たな活動を充実・発展」

発行年月日：2023年1月1日

日刊建設工業新聞「活動全般を再編・強化」

発行年月日：2023年1月10日

【雑誌等に掲載】

■ 准教授 西山孝樹

記事名：古都鎌倉の観光資源“段葛”の歴史の変遷と地域に根ざした景観の保全・活用

掲載誌：『土木学会誌』Vol.107, No.11（土木学会）

発行年月日：2022年11月1日

■ 特任教授 八藤後 猛

記事名：「子どもの転落事故防くには」（コメント掲載）

掲載誌：時事ドットコム（WEB／時事通信社）

掲載年月日：2022年11月29日

■ 客員教授 清水英範

記事名：日本測量協会と学会活動

掲載誌：『測量』Vol.72, No.12（日本測量協会）

発行年月日：2022年12月10日

記事名：「新年のご挨拶」（年頭所感）

掲載誌：『測量』Vol.73, No.1（日本測量協会）

発行年月日：2023年1月10日

【テレビ番組（出演）】

■ 准教授 押田佳子

NHK 総合「プラタモリ×鶴瓶の家族に乾杯 新春スペシャル2023」

放映日：2023年1月1日

【講演等】

■ 教授 阿部貴弘

「水都 東京の歴史・文化をはぐくむまちづくり」

主催：東京商工会議所首都圏問題委員会

開催年月日：2022年10月12日

■ 教授 岡田智秀

景観ワークショップ「南摩景観10選」を導こう！ 第2回特別講義「ふるさと南摩の景観について考えよう」

主催：鹿沼市立南摩中学校

開催年月日：2022年10月11日

御前崎市景観まちづくりワークショップ「御前崎市の地区別景観形成方針を考える」「国内外のウォーターフロント開発の動向と展望」（講師）

主催：御前崎市

開催年月日：2022年10月19日

国内外のウォーターフロント開発の動向と展望「国土技術政策総合研究所・職員研修会」（オンライン講演）

主催：国土交通省国土技術政策総合研究所

開催年月日：2022年10月27日

足利市景観講演会「身の回りからはじめる景観まちづくり」（基調講演）

主催：足利市

開催年月日：2022年11月18日

焼津内港まちづくりワークショップ「ウォーターフロント開発のあゆみから焼津漁港活用の留意点まで」

主催：焼津市都市政策部

開催年月日：2022年12月8日

みなとまちづくり研究会「七尾フィッシャーマンズワーフ30年の軌跡と今後のウォーターフロント開発の方途」

主催：みなと総合研究財団

開催年月日：2022年12月12日

御前崎市景観まちづくりワークショップ「御前崎市のワーケーション事業実現に向けた展望」

主催：御前崎市商工観光課

開催年月日：2023年2月10日

荒川区景観まちづくり塾「気づき・発見からあぶりだす荒川区の水×景観」（講師）

主催：荒川区

開催年月日：2023年2月25日

■ 教授 仲村成貴

2016年熊本地震における自治体・地域建設業の応急対応の課題と教訓「地域建設業の被災状況と対応力」

主催：地域産業活性化協会

開催年月日：2022年11月21日

■ 特任教授 天野光一

オンラインセミナー番外編・対談「日本の道路環境は良くなったか」

主催：日本みち研究所

開催年月日：2023年2月16日

■ 助教 田島洋輔

埼玉県羽生市・利根川観光活用プロジェクト「利根川観光活用まちづくりワークショップ～観光資源の発掘と活用方策の検討～」利根川観光活用プレイベント～Tone River De First Step～」

主催：利根川の魅力を育む会

協力：埼玉県羽生市観光プロモーション課

開催年月日：2022年9月2日、9月23日、10月2日、10月16日、11月5日

編集後記

No.11（2018年秋号）より横内憲久先生から引き継ぎ、西山先生のフォローもいただきながら『まち』の編集長を5年間務めさせていただきしました。春号は「まちの見方・楽しみ方」を教員の皆さんに、秋号は「職場での活躍」というテーマで卒業生の1期生から順次、執筆してもらいました。どちらの企画もまちづくり工学科の幅広い分野の特徴を皆さんに知っていただく機会となればとの思いでした。コロナ禍の中で、広報誌の役割もとても重要でした。さて、今号で小木曽の編集長と西山先生の編集は最後となります。次号からは、八藤後先生、牟田先生の編集で取り組みます。どうぞご期待ください。長い間ご支援ご協力ありがとうございました。（小木曽裕）